



令和3年4月24日



かぶち

PTA 総会の話にかえて

「自ら考え、豊かな心をもち 最後までやりぬく子」

校長 木村 正男

今年度の学校目標は、上記のようにしました。昨年度までは、以下のようでした。

「豊かな心をもち、 自ら考え、 進んでやりぬく子」

順序を変えたことと、少し言葉をかえました。しかし、ここには、大切なねらいを含ませています。

まずは、「自ら考え」を最初にもってきたことです。これからの社会は、様々な理由で変化が激しい世の中になると言われています。新型コロナウイルスの影響で既に学校生活も含めて、私たちの生活様式が大きく変わりました。また、世界の国々の関係も良好であったり、逆に悪くなったりすることもあります。IT革命が起きて、日本中、世界中の人々と会うことも可能になってきました。今まで当たり前のように思っていたことが、そうではなくなってきました。つまり、今まで私たちが信じてきていたことが、変わる時代に入ってきたのです。これからは、1つしかない答えを導き出す学習ではなく、答えが見つからない時にでも、幾通りかの答えを見つけ出す必要が出てきているのです。このような社会を生き抜くために、まず必要なのは、「自主的にとらえて考えること」です。誰かに言われたことを素直に聞いて動いていくことも必要ですが、「なぜなのかな」「どうしてなのかな」「どうすればよいのかな」とまずは、考えていける子になってほしいと願っています。

「豊かな心」は、誰とでも仲良くできることです。一緒に生活していると、意見が合う場合もありますが、合わなくて食い違うこともあります。そこから人は学ぶことが多いです。価値観の違う人との出会いは、自分の成長の糧になります。しかし、近年、価値観の合わない人とは、関係を断ってしまう人が増えていると感じます。それでは、多国籍、多文化の社会で生きていくことは難しいでしょう。価値観の合う人と一緒にいたい思いは大切にしつつ、一方で誰とでも、ある一定の関係を保って生活していくことは、とても重要です。そのような「豊かな心」をもつ子になってほしいと願っています。

「最後までやりぬく」は、まさに昨年度の卒業生に教えてもらいました。年間を通して続けた「奉仕活動」からです。日替わり、週替わり、月替わりで活動することは、学校生活ではよくあることです。しかし、年間となるととても大変な作業になります。毎日同じ事を繰り返して続けることは、誰でも分かると思いますが、精神的にも辛くなります。嫌になるし、他の事がしたくなるし、とにかく続けることは難しく、意欲的にやろうとしても、そうはなりません。進んでやるとは、程遠い心境です。でも、それでも続けます。自分のやる事が自分を含めて誰かの為に役立つと信じて続けます。繰り返し続けながら、ふと気づくと習慣のようになってきます。やらないと何か忘れていたような気分になるのです。その頃には、無意識に行動する力が養われています。褒められるからやる、叱られるからやるではない、崇高な価値観、行動力になっているのだ感じました。このような体験をした子は、多少嫌なことがあっても、粘り強く続けることができる子になっていくのでしょうか。そんな「最後までやりぬく」ことの大切さを知ることになってほしいと願っています。

以上の3つのことを大切に、学校活動を充実させていきたいと思います。今年度もよろしくお願いします。

一人一台のタブレットの使用について

昨年度から使用し始めています。昨年度は、試験的に使用していましたが、本年度は本格的に使用していきます。その為、保護者の皆様からの同意書をいただきながら、使用していくことになります。5月中旬をめどに、町の教育委員会からの文書を各ご家庭に学校を通して配付します。ご理解とご協力いただきますようお願いいたします。